

栗原の稲作通信

令和5年 第2号 令和5年6月2日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9404

分けつ促進のため浅水管理を基本としましょう / いもち病の要因となる残苗を処分しましょう

気象経過

- 4月：気温は平年と比べ高く推移しました。降水量は上・中旬が少なく、下旬が多くなりました。日照時間は上・中旬が少なく、下旬が多くなりました。
- 5月：気温は平年と比べ中旬が高く推移しましたが、上・下旬が低くなりました。降水量は上旬が多く、中・下旬が少なくなりました。日照時間は上・下旬が少なく、中旬が多くなりました。

東北地方1か月予報

期間：06/03～07/02

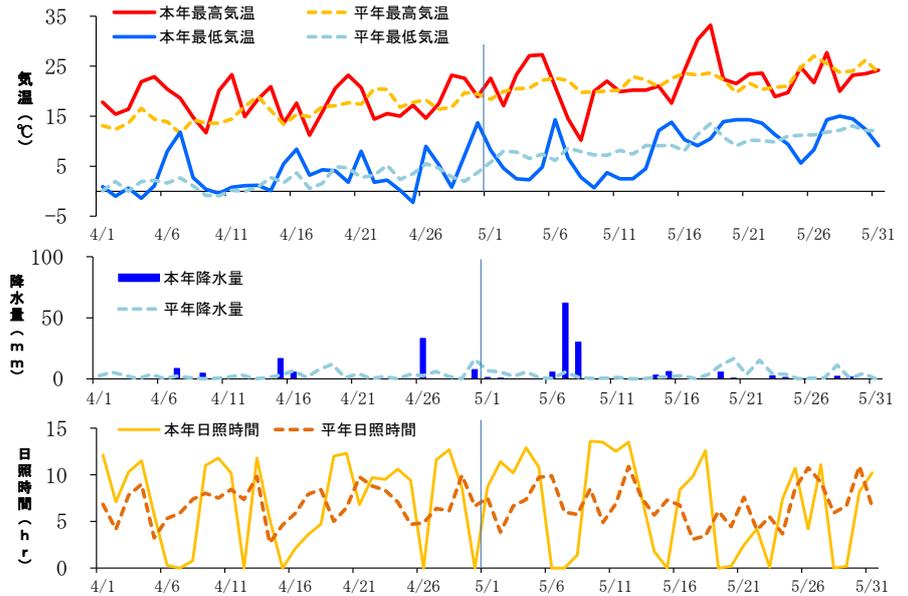
仙台管区气象台6月1日発表より要約

予想される向こう1か月の天候 (平年と比べて)

平均気温：高い 見込み

降水量：少ない 見込み

日照時間：多い 見込み



気象経過 (アメダス築館) *点線は平年(過去5か年平均)

播種・田植え状況

	進捗状況		月日	平年差
	盛期	50%終了		
播種	盛期	50%終了	4月16日	2日遅い
	終期	95%終了	4月26日	2日遅い
田植え	盛期	50%終了	5月13日	1日早い
	終期	95%終了	5月21日	3日早い

生育経過

- 田植時は、前年と比べ田植日、1m²当たり茎数が平年並みとなりました。
- 6月1日調査は、前年と比べ、草丈は短く、茎数は多く、葉数は多くなっています。

表1 生育調査ほ調査結果 (6月1日調査)

品 種	地 区	田植日 (月日)		田植時調査									
		本年	前年差	平年差	栽植密度 (株/m ²)			植付本数 (本/株)			茎数 (本/m ²)		
					本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)
ひとめぼれ	築館 北部平坦	5/5	9日早	3日早	16.0	100	98	4.4	90	100	70	90	96
ひとめぼれ	若柳 北部平坦	5/21	1日遅	1日遅	18.7	106	98	4.8	98	96	90	104	99
ひとめぼれ	一迫 西部丘陵	5/12	同日	-	19.7	104	-	3.0	111	-	59	116	-
ひとめぼれ	平均	4/22	3日早	-	18.1	103	-	4.1	98	-	73	102	-

品 種	地 区	苗質調査						6月1日調査								
		草丈 (cm)			葉数 (枚)			草丈 (cm)			茎数 (本/m ²)			葉数 (枚)		
		本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)
ひとめぼれ	築館 北部平坦	14.4	97	102	3.2	0.0	0.2	25.6	83	84	139	153	103	6.3	0.7	0.3
ひとめぼれ	若柳 北部平坦	18.1	99	107	4.2	0.5	0.7	16.6	76	81	97	102	93	4.2	-0.4	-0.5
ひとめぼれ	一迫 西部丘陵	13.0	87	-	3.3	0.2	-	21.7	101	-	75	116	-	5.8	0.5	-
ひとめぼれ	平均	15.2	95	-	3.6	0.3	-	21.3	86	-	104	124	-	5.4	0.2	-

※1 表中の平年比・平年差は、過去5年間の平均値を基に算出。

※2 一迫ひとめぼれは、令和2年に調査農家を変更したため、平年比・平年差はありません。

※3 6月1日調査は「ひとめぼれ」のみの実施となります。その他の品種は6月10日調査から実施します。

今後の管理

■水管理

- ・活着後は2～3 cm程度の浅水で管理し、水温・地温を高めて分けつの発生を促しましょう。極端な低温が続くことが予想される場合には、水深を5～6 cmの深めにしてイネを低温から守りましょう。
- ・生わらや牛ふん堆肥などの有機物を多用している水田では、気温の上昇とともに有機物の分解が盛んになり、イネに有害な硫化水素などのガスが発生しやすくなります。このような場合は、溝切りや落水管理を行い、根の活力低下を防ぎましょう。
- ・除草剤を使用する場合は、使用上の注意事項をよく読み、適切な水管理に努めましょう。

■雑草対策

- ・表層剥離が多発すると、フロアブルやジャンボ剤では拡散が妨げられ濃度のムラが生じ、局所的に薬害や残草が生じます。藻類や表層剥離の発生が懸念される場合には、徐々に落水して浅水管理を行い、降雨時には落水して田面に雨が当たるように管理しましょう。除草剤散布前に藻類や表層剥離が目立つ場合は、田面水を交換してから除草剤を散布するようにしましょう。
- ・除草剤を使用した場合には、散布後7日間には必ず「止め水管理」を行ってください。
- ・ほ場の残草状況を確認し、草種と葉齢に応じて、中期剤の使用を検討しましょう。
- ・ノビエ、イヌホタルイ、シズイなどの雑草が繁茂すると、斑点米の原因となるアカスジカスミカメが水田内で増殖して被害が助長されます。

■病害虫防除

▷いもち病

- ・補植用残苗はいもち病の発生源となりますので、補植が終了したら直ちに処分しましょう。
- ・飼料用米や直播栽培など、箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、各種水面施用剤を散布しましょう。

▷イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ

- ・箱施用剤を使用した場合 …… 本田での防除は必要ありません。
- 箱施用剤を使用しなかった場合 …… 要防除密度（下記参照）により防除の実施を判断しましょう。

要防除密度

イネミズゾウムシ	畦畔際 2 m 程度の成虫密度 140 頭/100 株（晩期栽培は 70 頭/100 株）
イネドロオイムシ	成虫密度 25 頭/100 株 または 産卵最盛期の卵塊密度 80 個/100 株

■春の農作業安全確認運動実施中 実施期間 3月1日～5月31日

「シートベルトとヘルメットの着用、安全フレーム付きトラクターの利用」

農業機械作業による死亡事故が多発しています。シートベルトを着用することで死亡事故の発生を大幅に低減できるため、トラクター運転時は装着を徹底しましょう。また、安全フレーム等の装備を改めて確認し、公道を走行する際には灯火器類の設置や法令遵守を徹底しましょう。

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。